

期限内完了を強調

上関原発
埋め立て

中国電社長 知事に面会

中国電力(広島市)の清水希茂社長が10日、県庁を訪れ、村岡副政知事に面会した。

清水社長は、面会后取材に応じ、上関原発建設予定地(上関町)の公有水面埋め立て工事に先立つ海上ボーリング調査に着手できず、当初スケジュールよりも大幅に遅れていることについて「期限内に埋め立て完了を目指すということには変わりはない」と強調した。



村岡知事と面会后、取材に応じる中国電力の清水社長

中国電は2019年7月に県から埋め立て免許の再延長許可を得る際、「8月にも海上ボーリング調査に着手

する」としたが、必要な占用許可申請が大幅に遅れた。10月に占用許可を受け、11月14日を着手予定日と公表したが、反対派住民による海上抗議や荒天のため準備作業に入れず、調査の一時中断を決定、県に12月に占用許可廃止を届け出ている。

清水社長は海上ボーリング調査について「安全第一でやろうと考えたが進められなかったのは残念だ。理解をいただきたいながら実施

できればと考えている」と述べた。再開時期については「段取りを検討中だ。いつごろとは申し上げる状況に無い」と明言を避けた。

中国電は09年の埋め立て工事着手後、海上で抗議した住民らを相手取り、損害賠償請求訴訟などを起こしているが、今回の抗議行動への法的対抗措置について、清水社長は「実損はそれほどではない。そういったことは考えていない」と話した。【坂野日向子】